

12月14日

となりひと よろこ
テーマ：隣人を喜ばせる

ひと てがみ しょう せつ
聖書箇所：ローマ人への手紙15章1～2節

◆今日のみことば

私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

ひと てがみ しょう せつ
ローマ人への手紙15章1～2節

◆メッセージ

みなさんには兄弟がいますか。私には弟と2人の姉がいます。私は兄弟の中でも、いとこたちの中でもいちばん最初の男の子でした。おじいさん、おばあさんはとくによろこび、私をかわいがってくれました。おじいさんのひざは私の指定席でした。ほかの子どもがすわっていると、そこをどかせ、自分がすわりました。幼いときには「これはぼくのもの」という気持ちはだいじです。が、私のばあい、それが少し長くつづきました。弟や姉、いとこたちが私をうらんでいたことを知ったのは、ずっと後でした。私にはいちばん近くの人が見えていませんでした。気持ちがわからなかったのです。

教会にはいろいろな人がいますね。勉強のよくできる人やそうでない人。スポーツの得意な人やがてな人。足のはやい人やおそい人。健康な人や病気の人。事故で足が動かなくなった人もいますし、腕をなくした人もいるかもしれません。外国の人もいます。みんなイエスさまを信じ、私たちの兄弟姉妹なのです。おたがいに、今あの人にはなにが必要なのだろう、私になにをしてほしいのだろう、と考えたいものです。

それだけでなく、世の中には、まだイエスさまを信じていなくても、たくさんの人たちがいます。イエスさまが私たちの罪をせおってくださったように、私たちも世界中の人たちの弱さに手をのばし、助け合いたいものです。私たちには、隣りの人たちの必要が見えているのでしょうか。

◆お祈り

私たちの目と心が、となりにいる人たちを見ることができるよう。アーメン。

(鳥取聖書教会牧師 中井堯)

